

本で捧げていただきました。
スミス神父様は、腰椎や骨盤などに骨の痛みがあったので、モルヒネが処方され、服用していました。しかし、出来る限り日常の身の回りのことを自分でしたり、ボランティアとして働くことが出来るようにと、鎮痛剤の量は抑える方を選ぶ決断をしていました。そのため、痛みが続いていたと思われず。
しかし、神父様は痛みに対する文句は一言もなく、勇気を持ってそれを受けとめている態度は、共同生活を送る周りの兄弟の心にも感動を与えていたとのことでした。

スミス神父様は、毎年私に会うと念を押すように「日本に帰って働きたい。今は、それが出来ない。」とご自分の気持ちを分かち合ってくださいっていました。私が「城北橋教会では、毎週日曜日、聖体拝領の後、神父様の回復のために祈っています。」と伝えると「そのお陰で、今も私はいます。私も日本の皆様のために祈っています。」との返事でした。

今までに多くの方々が、スミス神父様をシドニーに尋ねてお見舞いしたり、手紙やメールを送って、慰め励ましていただきました。皆様に心からお礼申し上げます。

二〇年間にわたり、愛する日本で私たちのために働いてくださったスミス神父様に心から感謝します。

スミス神父様、これまで大変お世話になりました。本当にありがとうございました。これからはイエス様が用意して下さっている天の御父の家から、私たちを見守り、祈ってください。永遠の安息をお祈りいたします。

(五月五日追悼ミサより)

